

小谷城 長浜市小谷郡上町、長浜市湖北町伊部

長浜市の小谷山（495.1m）にあり、初代浅井（あざい）亮政が大永2年（1522）に築いたのがはじまりと云われ小谷山から南に伸びる尾根を城郭化している中世の山城。

浅井家が3代（亮政、久政、長政）にわたって居城としていました。浅井長政、織田信長の妹お市の方やその間に生まれた3人の娘・浅井三姉妹（茶々、初、江）ゆかりの城です。城跡からは琵琶湖や湖北の地を一望することができます。織田信長との戦いで浅井家が滅んだ後、羽柴（豊臣）秀吉に与えられましたが、秀吉は今浜（いまはま）（現在の長浜）に城を築いたためにそのまま廃城となってしまいました。自然の地形を利用して東西の尾根に各郭が配置され、本丸、大広間跡などから建物の礎石が出土し、最頂部の大獄（おおずく）（495m）にも土塁が残っています。清水谷（きよみずだに）には、平時における浅井氏と家臣たちの館跡があります。（説明版、パンフ）



大広間に至る参道



大広間跡(千畳敷)



中丸跡と堀切に至る



本丸跡



本丸北の大堀切



堀切



中丸跡(石垣はあるが土塁はない) 京極氏の屋敷跡



小丸



大石垣跡



姉川の合戦地が見える



伊吹山が見える



番所跡



馬屋跡



琵琶湖が見える



説明版



資料館